

図1 わが国の大腸がん死亡率の最近30年間の推移

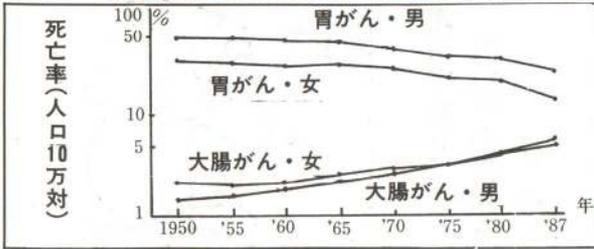


表1 大腸がんの食物中のリスク・ファクター

減少因子	高線維食(野菜:豆類、ほうれん草等)、良質のたんぱく質(チーズ、魚類等)、ビタミン
増加因子	高脂肪食、高たんぱく食、低線維食肉/野菜比の高い食事

臨床症状
 一般に大腸上部では自覚症状が乏しいため、診断時点では腹痛や強い貧血があったり、腹部の腫瘤を触知できたりするなどがしばしばです。また腸管出血は見逃がされやすく、時には原因不明の体重減少や、発育した腫瘍による腸閉塞の状態て来院する人もいます。

臨床症状

大腸がんの発生には、遺伝的要因よりはむしろ環境因子、なかでも食事因子が重要視されています。大腸がんの食物中のリスク・ファクター

大腸がんと食事要因

近年、わが国では生活様式の変化に伴って、大腸がんの発生が増加していて、西暦二〇〇〇年には、胃がんによる死亡率をしのぐものと予測されます(図1)。大腸がんの発生には、遺伝的要因よりはむしろ環境因子、なかでも食事因子が重要視されています。大腸がんの食物中のリスク・ファクター

大腸がん

市立総合病院外科部長 猪野 満

ドクター通信

20

スク・ファクター(原因あるいは先行指標となる因子)は「表1」とおりです。高脂肪食、高たんぱく食、低線維食の摂取が大腸がん発症の増加因子としてあげられ、逆に減少因子としては高線維食(ホウレン草等の野菜、豆類)、良質のたんぱく質、ビタミン等を取ることがあげられます。線維が大腸がんの抑制機能をはたす理由には、便を増加させ、便の腸内通過時間を短縮させるからと考えられています。

治療後の経過

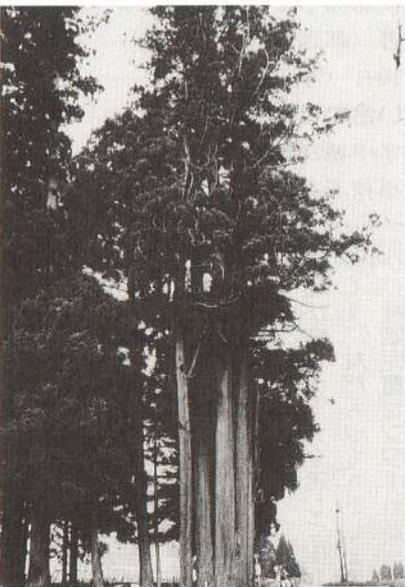
大腸がんは胃がんに比べて治療後の経過が良く、早期がんで手術を受けた人の五年生存率は九五%となっています。しかし、進行がんのそれは四〇%前後と極端に悪くなります。

以上のことから、大腸がんの対策としては早期発見、早期治療が大切なのです。四十歳以上の人で、不定の腹痛、血便、原因不明の下痢、便秘等の症状がある人は、早めに腸検査を受けましょう。

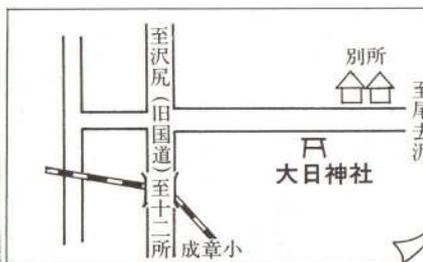
守りたい。残したい。

並木・名園・名木 ⑨

別所大日神社の三本マツカの杉



三本マツカの杉は推定樹齢約四百年、樹高約二十メートル。神社の周囲に茂る杉の中、この木は根元から少し上の所で三本に分岐するという珍しい姿をしていることから「三本マツカ」と呼ばれ、それぞれの幹は三つの大日神社の方向を指しているといわれています。



別所大日神社の祭神は大日如來です。十二所地区にある神社の中では最も古い時期に造られたといわれていますが、近世中期以前のことについては伝説の域でません。しかし、米代川流域には小豆沢(鹿角市八幡平)や独鈷(比内町)の大日神社がありますから、これらとまったくかけ離れた存在であるとは考えられないでしょう。この神社は小豆沢、独鈷の大日神社とともに同一人物によって造られたもので、初めの御神体は一本の木から作られ、それぞれの神社に安置されたと伝えられています。

○所在・大館市別所 大日神社境内
 ○所有者・別所大日神社
 (管理者・別所部落会長 黒田 才治氏)
 ○由来・特色